

日本福祉のまちづくり学会第8回全国大会

プログラム

テーマ

～すべての人の安心 自由 幸福をめざして～

大会長 守屋 秀繁

千葉大学大学院・医学薬学府長・整形外科学教授

<開催日時>

2005年8月25日(木)～8月26日(金)

<開催場所>

千葉県教育会館

〒260-0013 千葉県千葉市中央区4-13-10

電話：043-227-6141 FAX：043-227-4555

(千葉都市モノレール「県庁前」駅より徒歩7分)

第8回全国大会長あいさつ

守屋 秀 繁

千葉大学大学院・医学薬学府長・整形外科学教授

新憲法制定 60 年後の今、まちにいる障害児者・高齢者にとって本当に安心できる世の中になったのか。大きな流れとして、より自由で幸せな社会へと移行してきていることは確かであるが、突発的な人災や災害は個人やまちの人々の幸せを一举に破壊してしまう。その予防から復興までの対策に関する計画立案もまた、すべての人の安心・自由・幸福をめざす「まちづくり」の重要な課題といえる。

人々が暮らす環境、すなわち住宅や交通機関などのハードウェアもバリアフリー化し、誰もが使えるユニバーサルデザインになって欲しい。人々の健康も幸せの基礎である。保健・医療・介護においても、誰もが予防と早期の回復のための機会を有効に利用できるために、リハビリテーションの理念に裏打ちされたサービスが充実して欲しい。高齢者や障害者の地域在宅生活支援の一環として、平成 10 年以降から各県で地域リハビリテーション支援体制整備推進事業が展開されている。まず住民に身近な市町村域や二次医療圏の医療や福祉の機関や事業所が、全領域のサービスを調整する地域リハビリテーション協議会と協力して、医療・保健・福祉（介護）等の住民ニーズに答えていくシステムを作りつつある。

徐々にではあるが、人々の生活に関する様々な領域において基盤整備がなされてきているが、それらが当事者のためになっているであろうか。ノーマライゼーションの地域社会構築には、当事者ならびに地域住民の参画が必要不可欠であり、そのニーズに応じていくことが肝要である。

以上の観点から、千葉で開催される第 8 回大会では、出来る限り当事者の視点から見たプログラムを構成したつもりである。またグローバルな理念をふまえた上で、地元千葉からのローカルな情報を発信させていただいて、全国からの参加者とともに、有意義な大会にしたいと考えている。

開催要領

【1日目】8月25日

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～11:00 研究発表 1
- 11:10～11:45 総会
- 11:45～13:00 休憩及び昼食
- 13:00～ 守屋秀繁 大会長挨拶
懸賞作文等表彰式
- 13:20～14:00 堂本暁子 千葉県知事講演
「まちづくりと分権型社会」(仮題)
座長 守屋 秀繁 (大会長)
- 14:00～14:40 澤村誠志 学会長講演
「地域リハビリテーションの展望」
—誰もが尊厳をもって地域に住み続けるため—
座長 長尾 龍郎(実行委員長)
- 15:10～17:00 パネルディスカッション
「権利の視点から考えるまちづくり」
コーディネーター：川内 美彦
パネラー：清水忠男 長瀬 修 成瀬正次

わが国ではハートビル法、交通バリアフリー法などの法的整備が行われているが、なぜそれが必要なのか、高齢の人や障害のある人の社会参加をどう考えるのかといった根本的な議論が行われてきたとは言いがたい。その結果として、ハードが整備されても、そこでの利用が必ずしも約束されていないという状態が起こっている。折しも国連では障害者権利条約の制定作業が進んでおり、本セッションでは国際的な動き、わが国での現状、千葉県での取り組みなどを取り上げて展開したい。

- 18:00～19:30 懇親会 京成ホテルミラマーレ
ローズルーム (6F)

【2日目】8月26日

- 9:30～12:00 研究発表 2
- 12:00～13:00 ランチョンセミナー
学会特別委員会報告
- 会場—1 「ハートビル法、交通バリアフリー法、福祉のまちづくり条例の
連携方策に関する特別研究委員会」
報告者：寺島 薫 水村容子

平成15年度より開始した標記の特別研究委員会2年目の活動成果を発表する。平成16年度は会員から広く委員を公募し、交通バリアフリー法、ハートビル法、福祉のまちづくり条例の3つのWGを設置。それぞれの法制度と国や自治体の動向を調査・分析し、連携方策の必要性と課題を検討した。特に、昨年度は委員会として国交省に設置されたユニバーサルデザインに関わる懇談会への意見提出を行った。セミナーでは以上の報告を元に参加者との自由討論を期待したい。

会場ー2 「観光ユニバーサルデザイン」

報告者：草薙威一郎 清水政司 伊澤 岬

観光ユニバーサルデザイン (UD) は、未だ確立した体系化のなされていない新しい研究分野です。しかし観光 UD は、出かける側 (利用者) のさまざまなニーズや感動の把握、受け手の側 (供給者) である観光地・観光対象・移動のインフラ整備と景観・文化・環境価値、情報の体系化や福祉システム導入など、福祉のまちづくりと一体になった総合的で複合的なハード・ソフトの裾野を持っています。観光 UD 特別委員会では、観光 UD の全体構造の把握と観光 UD に含まれる諸課題の掘り下げを行っています。多くの方々のご参加を期待しています。

13:30~15:00 研究発表 3

パネルディスカッション

「誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らす」

コーディネーター：大熊由紀子

パネラー：千葉県・市町村・社協・住民の方々から

「健康福祉千葉方式」をご存じですか？ ①ハンディをかかえたご本人を中心に県民と行政が白紙状態から一緒に施策をつくる②作業部会は夜や土日に開かれ、手弁当③制度の縦割りを超え横断的に④施策が実行されているかどうか継続して見守るーというこれまでの日本の行政にはなかった方式です。それは、県職員の次のような問いかけへの感動から始まりました。「理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人がこの千葉にいないか」その中から、就労、教育、環境、農林水産、環境、観光の各分野が「地域」という視点の中でクロスオーバーする「超福祉」という考え方が生まれました。さまざまな分野で実践するパネラーの出会いから何が生まれるか、とても楽しみです。

15:30~17:00 研究討論会

研究討論会 1 「医療・福祉と交通サービス」

コーディネーター：三星昭宏 秋山哲男

指定討論者：豊増達夫 河崎民子 米山孝平

高齢者・障害者の送迎を行っているボランティア団体が利用者から運賃をとると法律違反になっていた。これを、道路運送法 80 条において非営利団体であれば運賃を取ることを、国土交通省が可能にした。そのためには市町村による運営協議会において承認することを前提条件にしている。ここでは、介護保険による移送サービスも含めて、これからどの方向に行くのかを議論する。

研究討論会 2 「情報バリアフリー化はここまで来た」

コーディネーター：高橋儀平 古瀬 敏

指定討論者：市川 熹 植野慶也 照川貞喜 松井 進

さまざまな支援技術開発のおかげで、たとえ障害があっても、情報を手に入れたり、あるいはコミュニケーションを行うことが、従来に比べると容易になってきました。この研究討論会では、現状はどうかについて3名の利用当事者から忌憚のないご指摘をいただき、その後コメントも交えて、何が未解決の課題として残っているのか、将来に向けての電子情報の可能性も含めて考えてみたいと思います。

【展示のご案内】

展示会場 本館 201 号室 (8 ブース)

- ・長寿社会文化協会 (一番ヶ瀬泰子会長) 認知症体験装置
- ・日立製作所・KE システムズ/伝の心：意思伝達装置
- ・日本エコロジー ユビツキイ：指点字装置
- ・五大エンボディ：スウェーデン知的障害支援技術

- ・(株) キクテック：点字ブロック・自発光式点字ブロック等
- ・(株) 徳永装器研究所：痰吸引装置
- ・ファイン：口腔ケア機器
- ・アルファテック：フットケア機器
- ・メルシー：フットケア機器

展示ホール 新館大ホール前 (20パネル形式)

- ・懸賞作文応募作品他ポスター

【視察研修会】 8月27日(土) 9:00~17:00

視察研修会A(事前申込)

「小江戸佐原と成田山新勝寺のバリアフリー」

視察研修会B(事前申込) 10:30~16:00

「障がい者と一緒に東京ディズニーシーのバリアフリーサービス体験会」

【懸賞作文募集】

①応募資格：会員に限らず、障害者とその関係者

②内 容：「すべての人の安心・自由・幸福をめざして」をテーマに、地域リハビリ、ハートビル法、交通バリア法、情報バリアフリー化等についての提言

③応募要領：四百字詰め原稿用紙6枚程度。障害当事者の場合はどのような表現媒体を使ったものでも可。未発表作品で1人1作に限る。

氏名・年齢・職業(学生の場合は学校名・学年)・住所・電話番号を記入の上、「日本福祉のまちづくり学会 第8回全国大会事務局」(千葉県千葉リハビリテーションセンター地域支援部 電話 043-291-1831(内線)189-266-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2

担当：太田令子 行木 淳) 〆切：7月22日(当日消印有効)。学識経験者らによる審査にて、入選者には賞状および副賞(10万円、5万各1名)。

研究発表プログラム

1日目 研究発表1

会議室	9:30~11:00
501-A	1-A「当事者・市民参加まちづくり1」
501-B	1-B「災害・防災」
303-A	1-C「公共・建築設備・バリア」
303-B	1-D「学習、研修、体験」
203-A	1-E「生活支援・社会」
203-B	1-F「交通システム」
202	1-G「外出行動」

2日目午前 研究発表2

会議室	9:30~10:30
501-A	2-A「権利・制度のまちづくり1」
501-B	2-B「観光地・観光バリアフリー1」
303-A	2-C「歩行者・歩行環境1」
303-B	2-D「当事者・市民参加まちづくり2」
203-A	2-E「利用者特性・当事者特性・器具1」
203-B	2-F「建築・住環境整備1」
202	2-G「建築整備・改修1」
会議室	10:45~12:00
501-A	3-A「権利・制度のまちづくり2」
501-B	3-B「観光地・観光バリアフリー2」
303-A	3-C「歩行者・歩行環境2」
303-B	3-D「当事者・市民参加まちづくり3」
203-A	3-E「利用者特性・当事者特性・器具2」
203-B	3-F「建築・住環境整備2」
202	3-G「建築整備・改修2」

2日目午後 研究発表3

大ホール	パネルディスカッション「誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らす」
------	---------------------------------------

会議室	13:30~15:00
501-A	4-A「案内・サイン・誘導」
501-B	4-B「観光地・観光バリアフリー3」
303-A	4-C「専門化育成」
303-B	4-D「交通バリアフリー・歩道・市街地」
203-A	4-E「公共施設」
203-B	4-F「安全・交通安全」
202	

8月25日(木) 研究発表1 (9:30~11:00)

セッション1-A 「当事者・市民参加まちづくり1」

座長 山田 稔

会場 501-A	2005003	市民協働による福祉のまちづくりの推進について -宮崎県福祉のまちづくり総合計画に基づく政策立案から-	岩浦厚信	宮崎市	
	2005004	県民参画型の福祉のまちづくりに関する研究 -「人によさしい福祉のまちづくり学園」設置事業の事例から-	岩切道雄	宮崎県	
	2005054	事例に基づいた類型化による「福祉のまちづくり」の様相 -活動という視点からの試み-	猪熊ひろか	東京大学	
	2005055	みんなで考えた安心して歩ける四谷の道、元気に暮らせる四谷のまち -自転車の歩道通行と高齢者の安全確保の方策を探るNPOが取り組んだ、社会的価値を創造する研究-	村上敬子	コミュニケーション・スクエア21	本田恵子
	2005066	障害者団体へのヒアリングによる、区民の意識転換について -福祉のまちづくり計画策定過程における区民参加事例から-	寺島薫	㈱アークポイント	奥山俊博

セッション1-B 「災害・防災」

座長 木村 一裕

会場 501-B	2005076	日常生活において発生頻度の低い事象への対応に関する研究	平山清美	日本大学	八藤俊猛、野村歡
	2005007	住宅の耐震改修はどうなすべきか? -自助の理念は事前対策にこそ-	古瀬敏	静岡文化芸術大学	
	2005052	原子力施設臨海事故発生と避難場所の現状 -茨城県日立市久慈学区から-	有賀絵理	茨城大学	
	2005068	船橋市の社会福祉施設における防災対策に関する研究	小林繁	日本大学	藤井敬宏
	2005131	身体障害者の災害時の避難に関する一考察	猪井博登	大阪大学	新田保次、谷内久美子、宮崎貴久、北山一郎、大森清博、三隅隆也、松本泰幸、藤田淳一、小平恭宏、外山芳弘

セッション1-C 「公共・建築設備・バリア」

座長 徳田 哲男

会場 303-A	2005027	パブリックトイレにおける便屋内操作系設備壁面配置の標準化 -パブリックトイレの標準化に関する研究 その2-	河野裕之	TOTO	高橋儀平、竜口隆三、高塩康洋、
	2005090	階段の安全昇降に関する研究	堀部潤	名城大学	鏡味伸也、新田武彦、藤田晃弘、桂裕高
	2005023	ロービジョン者に配慮した公共空間の階段の照明手法に関する研究	吉村裕可	摂南大学	岩田三千子
	2005123	バリアフリー環境整備効果の評価方法に関する研究	大村薫	日本女子大学	佐藤克志

セッション1-D 「学習・研修・体験」

座長 伊澤 岬

会場 303-B	2005058	「ポケットバリアフリー研修会」～当事者と共に体験する研修会一事例～	北村まさみ	つくばバリアフリー学習会	
	2005059	車椅子体験の効果 -段差の認識の変化から考える-	田中康之	八千代市役所	
	2005125	コミュニケーションスキルを磨く -視覚障害者の視点から見たコミュニケーション技法-	松井進	千葉県立中央図書館	
	2005132	視覚障害者による手話習得について -筑波技術短期大学視覚部 点字・手話サークルの活動を通して-	片伯部公次	筑波技術短期大学	落合麻紀
	2005038	学童保育における連携と共生への取り組み ～常盤平風の子学童クラブでの統合保育の実践に関するこれまでのあゆみと今後の課題～	徳田良英	帝京平成大学	

セッション1-E 「生活支援・社会」

座長 杉山 千佳

会場 203-A	2005087	高齢者の外出行動に関する基礎調査報告 ～愛知県大府市における高齢者の集いの場づくりに向けて～	尾崎由利子	地域情報研究所 鞆コムデザイン	荒川孝之、神谷浩夫
	2005136	札幌市内における高齢者向け民間共同住宅の立地環境と居住者の外出行動への影響に関する研究	小杉知裕	北海道大学	野口孝博
	2005079	積雪寒冷地の地方のまちにおける高齢者の暮らし・住まいの実態と将来意向 -北海道上川町を事例とする超高齢社会の生活環境研究・その1-	兼城尚司	北海道大学	野口孝博、殿井直
	2005039	積雪寒冷地の地方のまちにおける高齢者の暮らし・住まいの実態と将来意向 -北海道上川町を事例とする超高齢社会の生活環境研究・その2-	殿井直	北海道大学	野口孝博、兼城尚司
	2005108	在宅高齢者の外出行動と生活環境に関する意識 -岡山県津山市における老人クラブをケーススタディとして-	井上洋之	摂南大学	田中直人、高田真実

セッション1-F 「交通システム」

座長 鎌田 実

会場 203-B	2005057	高齢社会における福祉交通サービスの整備に関する研究 -長野県小梅町住民の交通に関するアンケート-	高橋徹	東洋大学	太田勝敏
	2005062	傾斜地住宅地に居住する高齢者のモビリティ	岡村敏之	横浜国立大学	森山昌幸
	2005133	都市におけるDR Tの適用可能性	吉田樹	首都大学東京	秋山哲男
	2005121	高齢者・障害者のSTサービスと運営協議会の課題と展望	秋山哲男	首都大学東京	

セッション1-G 「外出行動」

座長 河合 俊宏

会場 202	2005015	高齢者居住施設における入居者の移動能力と空間特性の相違による生活展開への影響	谷口健	川崎医療福祉大学	松本正富、齋藤芳徳
	2005031	ホームレスの人々の生活再建における中間居住施設の役割と安定居住の課題	阪東美智子	国立保健医療科学院	中島明子、丸山 里美
	2005053	高齢者専用住宅における認知症高齢者に対する日常生活支援について	石川彌榮子	城西国際大学	小池和子
	2005140	交通における社会的排除の克服 -英国における『社会的排除と公共交通の領域』の検討-	高橋万由美	宇都宮大学	
	2005126	スポーツレクリエーションを活用しての地域活動の実践 -高齢者から障害者まで誰でもが参加できるバリアフリースポーツ-	古賀稔啓	袖ヶ浦養護学校	渡辺美佐子

8月26日(金) 研究発表2(前半) (9:30~10:30)

セッション2-A 「権利・制度のまちづくり1」

座長 北川 博巳

会場 501-A	2005006	介護保険と支援費制度 ー理念は整合しているのか?ー	古瀬敏	静岡文化芸術大学	
	2005009	人が人を支えあう社会を ー黄色いハンカチ運動 民間における社会福祉運動の事例ー	佐藤若葉	NPO 全国黄色いハンカチ推進本部	
	2005050	地方公共団体が実施する移動制約者に対する交通施策に関する研究	谷内久美子	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	宮崎貴久
	2005088	科学的根拠に基づく健康づくり:千葉県健康生活コーディネーター事業と参加者のQOLの関連	柳堀朗子	千葉県衛生研究所	小路まさ子

セッション2-B 「観光地・観光バリアフリー1」

座長 寺島 薫

会場 501-B	2005025	知的障害者にとっての森林環境と都市環境 ー森林内活動反応の基礎的研究ー	赤城建夫	ちば発達評価・心理指導ルーム	
	2005115	観光ユニバーサルデザインの課題	清水政司	(財)地域開発研究所	草薙威一郎、秋山哲男、宮井久男、杵名豊明
	2005122	障害のある人の旅行の阻害要因に関する研究	中子富貴子、井上寛	もっと優しい旅への勉強会	草薙威一郎、黒崎隆、曾根原純、田村奈美、矢野敏樹、於保 真理
	2005077	北海道における移動制約者の旅行支援に関する研究 ー障害当事者によるモニター旅行調査報告ー	内藤恵	(社)北海道開発技術センター	新谷陽子、原文宏

セッション2-C 「歩行者・歩行環境1」

座長 秋山 哲男

会場 303-A	2005002	視覚障害者等の歩行支援システム ー障害者等 IT バリアフリープロジェクトー	鎌田実	東京大学	
	2005026	視覚障害者の冬期歩行環境に関する研究 ー雪道歩行環境整備のための基礎調査ー	安部信行	八戸工業大学	
	2005070	高齢者・障害者のための街路選択システムの構築	市川友子	豊田工業高等専門学校	荻野弘、野田宏治
	2005056	複数の視覚障害者音声情報案内システムに対応する共通端末を使用した歩行者調査の概要について	和田勉	日本点字図書館	大久保紘彦

セッション2-D 「当事者・市民参加まちづくり2」

座長 高橋 儀平

会場 303-B	2005106	熊本市在宅介護支援センター清雅苑周辺地域における高齢者支援ネットワーク形成について	堤信泰	熊本市在宅介護支援センター清雅苑	加来克幸、米満弘之
	2005137	当事者(聴覚障害者)から見たまちづくりの課題 ー情報障害者からの疑問と提案ー	中園秀喜	榊ワールドバイオリン	
	2005067	「住み慣れたところで暮らしたい」を支援する ー施設から在宅へー	恒吉よし子	千葉県社会福祉士会	
	2005138	要介護認定の変化における環境要因の影響に関する調査	山本 美香	地域ケア研究会	恒吉よし子

セッション2-E 「利用者特性・当事者特性・器具1」

座長 藤井 直人

会場 203-A	2005017	施設での車いす更新に伴う利用者特性の変化に関する研究	徳田哲男	埼玉県立大学	
	2005047	電動車いす利用者に対するヒアリング調査	目黒力	群馬パース大学	草野麻衣、井野真由美
	2005063	手動車いすの操作負担の定量的評価とスケール化に関する考察	米田郁夫	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	糟谷佐紀、阪東美智子、末田統、藤澤正一郎、鎌田実、井上結、室崎千重、多淵敏樹
	2005049	高齢者の歩行補助具使用に関する考察 ー歩行補助車「シルバーカート」に関してー	堤中知子	大阪芸術大学	

セッション2-F 「建築・住環境整備1」

座長 田中 直人

会場 203-B	2005005	生活者の犯罪不安と居住環境に関する研究 ーCPTEDに基づいた居住環境に関する基礎的研究 その1	吉田健	積水ハウス㈱	田中賢
	2005024	高齢化対応住宅の検証に関する研究 ー自立度による住宅改修に対する要求の実態ー	杉永順子	日本大学	松井壽則
	2005021	スウェーデンにおける関節リウマチ患者の住環境整備の状況	水村容子	群馬松嶺福祉短期大学	
	2005020	高度医療受療のための患者家族宿泊施設の現状と建築計画に関する研究	古谷聡子	日本大学	野村歡、八藤後猛

セッション2-G 「建築整備・改修1」

座長 岩田 三千子

会場 202	2005061	在宅医療を支える住環境整備のあり方について ー医療的立場からの調査ー	長島梢	日本大学	野村歡、八藤後猛
	2005110	車いす使用者の住環境整備に関する研究(その2) ー車いす駆動力の判定と適合スロープ勾配ー	糟谷佐紀	神戸学院大学	米田郁夫、阪東美智子、末田統、藤澤正一郎、多淵敏樹
	2005073	建築物におけるユニバーサルデザインの推進について ー千葉県建築物ユニバーサルデザイン整備指針策定の事例からー	矢島眞理	千葉県	
	2005010	リウマチ患者と取り組んだホテル客室改修事例 ーこれまで見過ごされて来た障害ー	秋元昭臣	京成ホテル	野口祐子

8月26日(金) 研究発表2(後半) (10:45~12:00)

セッション3-A 「権利・制度のまちづくり2」

座長 川内 美彦

会場 501-A	2005030	ハートビル法の対象建築物の範囲、義務化等の適切性、特定施設基準等に調査について 一高齢者及び障害者の建築物の障壁に関する研究(その1) 一	橋本彼路子	日本大学	野村歡、八藤後猛
	2005042	聴覚障害の建築物における障壁に関する研究 一高齢者及び障害者の建築物の障壁に関する研究(その2) 一	齋藤芽衣	㈱コムスン	橋本彼路子、野村歡、八藤後猛
	2005096	「福祉のまちづくり条例」の実化の検証 その1、大東市における各種建物の条例適合状況	馬場昌子	関西大学	
	2005097	「福祉のまちづくり条例」の実化の検証 その2、車椅子者による検証	村上悦子	関西大学	馬場昌子
	2005071	自治体におけるユニバーサルデザイン施策の展開と課題	高橋儀平	東洋大学	

セッション3-B 「観光地・観光バリアフリー2」

座長 清水 政司

会場 501-B	2005078	雪国のバリアフリーツーリズム 一移動制約者モニターによる冬の旅行調査報告一	新谷陽子	(社)北海道開発技術センター	内藤恵、西村泰弘、秋山哲男
	2005029	観光地のバリアフリー化に対する障害者の意識に関する研究	宮内大輔	茨城大学	金利昭
	2005044	観光地における安全で快適な観光交通の確保方策について	松原悟朗	㈱国際開発コンサルタンツ	
	2005114	観光ユニバーサルデザインの意義	草薙威一郎	JTMバリアフリー研究所	清水政司、秋山哲男、宮井久男、吾名豊明、小野鎮
	2005116	観光政策・観光まちづくりから見た観光ユニバーサルデザイン	宮井久男	岩手県立大学	吾名豊明、大島正敏、小野鎮、草薙威一郎
	2005139	偕楽園公園における車いす利用者から見たバリア調査事例	岡本朗	茨城大学	

セッション3-C 「歩行者・歩行環境2」

座長 大森 宣暁

会場 303-A	2005048	方向感覚質問紙を用いた視覚障害者の歩行能力に関する基礎的研究	柳原崇男	近畿大学	三星昭宏
	2005093	ハイブリッドカーの静粛性が視覚障害者の歩行の安全性に及ぼす影響 一局地横断時の事故の可能性に関する事例検討とガソリン車との音響比較一	中野泰志	東京大学	井手口範男、金沢真理、布川清彦
	2005080	ロービジョンに配慮した空間デザインの考え方について 一中部国際空港旅客ターミナルビルを取り組みを通して一	原利明	鹿島建設	
	2005084	ロービジョン者の夜間の歩行誘導に関する研究	谷内久美子	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	市原孝、宮崎貴久、北山一郎、大森清博、松井利和、三隅隆也、原田敦史、松本泰幸、藤田淳、小平恭宏、外山芳弘、猪井博登、新田保次
	2005129	音の誘発およびアクセシビリティに関する研究 一海辺の誘発音とみたとみらい線の音声・触知案内板の調査一	近藤直樹	タクトホーム㈱	近藤健雄、山本和清、伊藤慎吾

セッション3-D 「当事者・市民参加まちづくり3」

座長 横山 哲

会場 303-B	2005011	ものづくりへの障害者参加、その考え方(3) 一中部国際空港での経験から一	森崎康宣	㈱連空間設計	
	2005001	日本の都市への新型路面電車導入の緊急必要性と課題 一ひとと環境にやさしいLRTの導入を急ごう一	土居靖範	立命館大学	
	2005095	中核地域生活支援センター事業について 一健康福祉千葉方式の実践として一	白井正和	中核地域生活支援センターさわやかネット	
	2005065	市民参加の場の継続による福祉のまちづくりの仕組みづくりに関する考察 一東京都世田谷区烏山地域の福祉のまちづくり実践事例から一	福永順彦	場所づくり研究所(有)プレイス	稲田信之
	2005037	地域の住民が子どもと共に学ぶバリアフリーのまちづくり 一市民主体の取り組み事例から一	藤村万里子	(財)国土技術研究センター	寺島薫

セッション3-E 「利用者特性・当事者特性・器具2」

座長 小山 聡子

会場 203-A	2005072	バリアフリー化された鉄道駅内の昇降装置に対する利用者評価 一愛知県内4駅の利用者調査より一	磯部友彦	中部大学	
	2005103	移動経路上のバリアにおけるベビーカー利用者の身体負担と危険感に関する調査研究	大神博史	九州大学	齋藤 誠二、村木 里志
	2005043	車いす環境の違いによる高齢者の座位姿勢の実態に関する考察	吉永尚生	川崎医療福祉大学	齋藤芳徳、松本正富
	2005019	視覚障害者を営業する 一当事者の口から伝えることの必要性和難しさ一	鈴木真澄	ブラインド・ベル	
	2005135	一人のD型筋ジストロフィー症児をめぐる生活環境に関する考察	西村次郎	岡山理科大学	

セッション3-F 「建築・住環境整備2」

座長 田中 雅規

会場 203-B	2005086	身体障害者グループホームにおける居住者意識と空間構成に関する研究	稲本俊明	東洋大学	高橋儀平
	2005112	健常高齢者の住宅内温熱環境に関する実態調査	前川佳史	東京都老人総合研究所	小太刀一光
	2005036	高齢者居住施設ユニット化に伴う生活展開と私的空間利用の変化	川本悠人	川崎医療福祉大学	野上直紀、谷口健、松本正富、齋藤芳徳
	2005104	床仕上げによる視覚障害者誘導システムの評価予測関数の検討	岩田三千子	摂南大学	土井正
	2005085	五感を活用したユニバーサルデザインとしての内装材の検討 一視覚障害者の安全快適な誘導装置としての床材を活用した空間構成システムに関する研究一	田中直人	摂南大学	老田智美

セッション3-G 「建築整備・改修2」

座長 狩野 徹

会場 202	2005032	住宅改修事例から見た住環境整備の現状と課題 一高齢者のための住環境整備に関する基礎的研究その1一	児玉道子	名城大学	鈴木博志、宮崎幸恵
	2005033	住宅改修事例から見た住環境整備の現状と課題 一高齢者のための住環境整備に関する基礎的研究その2一	児玉道子	名城大学	鈴木博志、宮崎幸恵
	2005046	自閉症児・者のための住環境改善や暮らし方の工夫に関する研究 一騒音等に関する生活困難に対処するために一	西尾幸一郎	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	水野弘之
	2005051	住宅改修に関係する専門職を対象とした意識の把握調査 一建築分野と保健・医療・福祉分野の比較一	井上結	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	米田郁夫、糟谷佐紀、金承彦、阪東美智子、室崎千重、多淵敏樹
	2005074	千葉県内の障害者用駐車スペースに関する調査	石井裕樹	東京コミュニケーションアート専門学校	駿河茂人、野村歡、八藤後猛

8月26日(金) 研究発表3 (13:30~15:00)

セッション4-A 「案内・サイン・誘導」

座長 磯部 友彦

会場 501-A	2005014	千葉県における触地図案内板の設置状況	石毛一郎	千葉県立松尾高等学校	
	2005075	難波ターミナル地域(地下街)の案内・誘導サインの整備	島拓造	大阪市	
	2005089	LEDを使用した発光避難誘導標識の諸特性に関する研究	新田武彦	名城大学	堀部潤、鏡味伸也、藤田晃弘
	2005101	視覚障害者は点字ブロックをどのように利用しているのか? ?単独歩行をしている全盲者の点字ブロック利用方略の分析?	布川清彦	東京大学	中野泰志、井手口範男
	2005117	光のユニバーサルデザイン研究会 バリアフリー照明社会実験—光による視覚障害者の歩行支援の可能性—	最所祐二	松下電工(株)	秋山哲男、池田典弘
	2005141	地下鉄サインにおける多様な視覚特性への対応や外国人のニーズの研究	萩野美有紀	アール・イー・アイ(株)	中村豊四郎

セッション4-B 「観光地・観光バリアフリー-3」

座長 松原 悟朗

会場 501-B	2005012	自然環境のなかのユニバーサルデザイン	清水政司	(財)地域開発研究所	
	2005022	インターネットによる緑地環境バリアフリー情報の提供実態について—一日米の比較を通して—	美濃伸之	兵庫県立大学	
	2005109	歴史的建造物におけるバリアフリー整備の現状と管理者の意識—京都市・奈良市の寺社仏閣をケーススタディとして—	高田真実	株NATS 環境デザインネットワーク	田中直人
	2005127	バリアフリー仕様の伝統的建物(仏教寺院)に関する一考察—事例をととして—	後藤武重	除州設計建築士事務所	
	2005100	歴史的建築物のバリアフリー整備・情報の現状—平等院のケーススタディ—	竹中京子	明石工業高等専門学校	大塚毅彦
	2005113	観光ユニバーサルデザインと世界遺産—地形に読む都市と境内—	伊澤岬	日本大学	江守央、則本弘明

セッション4-C 「専門化育成」

座長 佐藤 克志

会場 303-A	2005045	子育て環境を視点とした地域におけるまち調査の実施—子育てバリアフリー環境づくりへの事業展開その1—	杉山千佳	子育て環境研究所	八藤後猛、野村歡
	2005035	失語症会話パートナーの養成—5年間の歩みと今後の展望—	石上志保	東京医療専門学校	宇野園子、田村洋子
	2005018	「まちのバリアフリー」をテーマとした総合学習手引きの考案	飯田克弘	大阪大学	黒川紗樹
	2005060	ホームヘルパーにおけるソーシャルスキルの実態と課題	佐々木由恵	国際医療福祉大学	篠崎良勝
	2005102	大学における福祉のまちづくり教育の実践—景観・デザイン教育の有効性について—	江守央	日本大学	伊澤岬、横山哲、田中圭二郎
	2005134	ヨットセイリング授業のバリアフリー化に関する考察	西村次郎	岡山理科大学	

セッション4-D 「交通バリアフリー・歩道・市街地」

座長 板東 美智子

会場 303-B	2005105	視覚障害者用誘導路の幅と歩きやすさの関係	渡辺洋子	岡山県立大学	武田真澄、高橋了子、田内雅規
	2005118	バリアフリーからみた小都市域の道路構造について	堤昌文	西日本工業大学	早川信介、真鍋寛和
	2005082	地方小都市における高齢者の生活実態と中心市街地整備の方向性に関する一考察—茨城県大洗町を事例として—	葛西紘子	茨城大学	山田稔
	2005092	鉄道駅舎における交通バリアフリー法適用に関する研究—鉄道事業者と車いすユーザを対象とした調査からの考察—	田中建路	大阪市立大学	西岡基夫、石橋達勇
	2005069	新宿区における交通バリアフリー基本構想策定に関する調査分析—新宿駅周辺地区を事例として—	堀井学	新宿区	秋山哲男、北川博巳、白水靖郎
	2005120	交通バリアフリー基本構想のためのニーズ調査と市民参加の取り組み—千葉県松戸市の事例から—	蓑輪裕子	聖徳大学	

セッション4-E 「公共施設」

座長 古瀬 敏

会場 203-A	2005034	高次脳機能障害と社会福祉施設の利用に関する一考察	進士恵実	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所	
	2005040	公共施設におけるバリアフリーの現状と課題—茨城県への調査旅行を通して—	鈴木庸一	国際医療福祉大学	若倉健
	2005099	小・中学校におけるバリアフリー整備の現状—神戸市・明石市のケーススタディ—	松本崇志	明石工業高等専門学校	大塚毅彦
	2005091	公共的建築物におけるバリアフリー環境整備のあり方に関する研究—利用経路上での問題点とその改善策—	山崎晋	明治大学	園田眞理子
	2005094	認知症高齢者の屋外生活領域のゾーニングに関する研究—都市型グループホーム入所者の外出行動を事例として—	絹川麻里	京都大学	

セッション4-F 「安全・交通安全」

座長 水村 容子

会場 203-B	2005008	高齢者からみた交通事故発生について	高井広行	近畿大学	
	2005081	高槻市の駅周辺における自転車事故事例と「バリアフリーの視点から自転車マナーを考える本」の作成について	九後順子	株アーバン・エース	
	2005013	交通安全と交通環境改善の一体化を目指す交通バリアフリー基本構想の策定—神奈川県座間市における市民の関与と参画プロセスを事例として—	斉藤進	産能大学	佐藤伸一郎、高橋一三
	2005016	学童の安全登校に関する基礎的研究	田中賢	日本福祉大学	吉田健
	2005128	視覚障害者のマンホール転落事故の危険性と事故事例報告	金沢真理	(社)東京都盲人福祉協会	中野泰志、大河内直之、井手口範男、布川清彦
	2005083	運転レコーダーを使用した福祉移送サービスの記録分析	北川博巳	東京都老人総合研究所	溝端光雄